

教育メディアを活用した社会科授業の工夫

— 学校図書館の利用を通して —

目 次

I	研究テーマ設定の理由	145
II	研究の仮説	145
III	研究の全体構造図	146
IV	研究の内容	147
1	メディアについて	147
(1)	メディアの定義	147
(2)	メディアミックスとその教育効果	147
(3)	メディアミックスと興味・関心	148
2	情報活用能力の育成	148
(1)	高度情報化社会に対応して	148
(2)	学習指導要領における情報化への対応	149
(3)	社会科と情報活用能力	149
3	学校図書館の積極的な利用	150
(1)	学習指導要領における対応	150
(2)	メディアセンターについて	150
(3)	学校図書館への期待	150
4	教育情報の収集	151
(1)	パソコン通信の利用	151
(2)	新聞社の利用	151
(3)	市立図書館の利用	151
(4)	年間計画におけるメディアの位置づけ	151
V	授業実践	155
1	単元名	155
2	単元について	155
3	単元の目標	155
4	単元の指導計画	155
5	学習過程	156
6	本時の指導	156
(1)	題材名	156
(2)	本時の目標	156
(3)	本時の観点別評価の視点	156
(4)	生徒の実態	157
(5)	チーム編成	157
(6)	本時の展開	158
(7)	活用メディア	159
(8)	データシートと授業後の反省	161
(9)	生徒の声と活動の様子	162
VI	研究の成果と今後の課題	163
1	研究の成果	163
2	今後の課題	164
3	おわりに	164
	〈おもな参考文献〉	164

宜野湾市立嘉数中学校

伊 波 寛 仁

教育メディアを活用した社会科授業の工夫

— 学校図書館の利用を通して —

宜野湾市立嘉数中学校 教諭 伊 波 寛 仁

I 研究テーマ設定の理由

情報化社会が叫ばれ、学校現場にもコンピュータなどの新しいメディアが以前にも増して導入されてきている。こうした高度なメディアの普及は加速度的に一般社会に広がっていくであろうし、このような社会に対応する教育内容や教育方法の研究が今日的な課題となっている。新しい学力観にたった新学習指導要領においても、教育課程の基本方針である自己教育力の育成等をうけ当面する教師への課題は、学習指導方法の工夫、教材・教具の開発、教育機器の活用、学習形態・指導体制の工夫等であると指摘している。

嘉数中学校においても学校教育目標の一つに「物事を深く考え、合理的に判断し、進んで自己を開発する生徒」をあげている。平成五年度の努力事項では「多様な学習方法を開発し、主体的学習の仕方の定着を図る」とし、教育機器等の積極的活用と授業改善をうちだしている。

しかし、これまでの私自身の授業実践を振り返ると、コンピュータや映像メディアであるVTRまたは印刷メディアである図書資料などこれらメディアの活用は教師主導型の活用が中心であり、生徒たちは受け身的にこれらのメディアから学習内容を学んでいるといった実態であった。生徒たちに目を向けると、最初の頃はメディアに興味を示すのだがそれもあまり長続きせず、学習意欲・集中力に欠く生徒が見られるようになってきていた。これらのことは、新学習指導要領において重視されている「興味・関心・意欲・態度」といった観点から、また生徒が主体となる授業改善への要望といった面からの課題として浮かび上がってきた。

そこで、今回生徒が受け身とならず数ある教育メディアを主体的に選択・活用し学習できる指導方法を研究することにより、生徒たちの意欲が向上し、教師主体になりがちであった授業の改善も図れるのではないかと考え本テーマを設定した。これらのことは、新しい学力観にたった自己教育力の育成や自ら学ぶ意欲に、ゆくゆくはつながっていくのではないかと考える。

II 研究の仮説

仮説1

生徒たち自身がメディアを選択し、これらを組み合わせて活用することにより生徒の学習意欲が高まり、生徒が主体となる授業への改善もされるであろう。

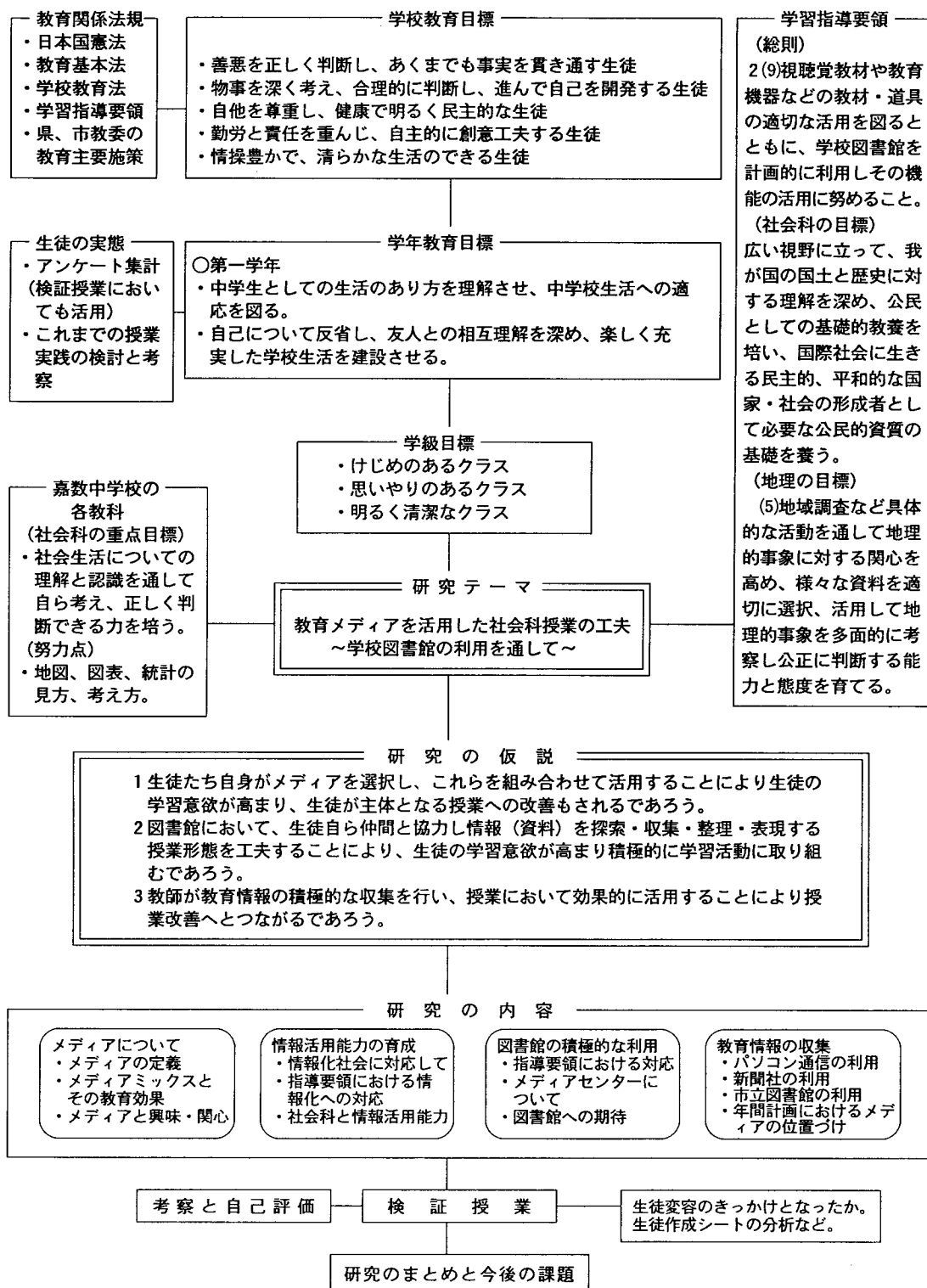
仮説2

図書館において、生徒自ら仲間と協力し情報(資料)を探索・収集・整理・表現する授業形態を工夫することにより、生徒の学習意欲が高まり積極的に学習活動に取り組むであろう。

仮説3

教師が教育情報の積極的な収集を行い、授業において効果的に活用することにより授業改善へとつながるであろう。

Ⅲ 研究の全体構造図



Ⅳ 研究の内容

1. メディアについて

(1) メディアの定義

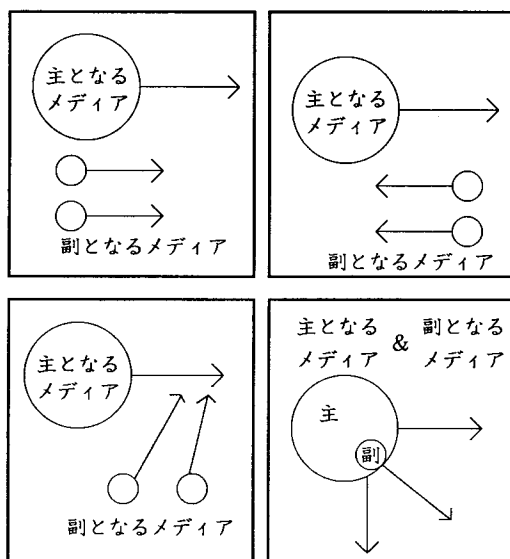
メディアというマスメディアやコンピュータなどのニューメディアを思い浮かべるが、その定義は明確なものとなっていないのが現状である。それはメディアという用語が、複合概念でありその部分が独立して議論されるからだと言われている。(右表参照) 広辞苑によるとメディアとは「媒体・手段」と定義されており、一般的に「情報伝達の媒介としての役割を果たしているもの」として捉えられている。

以上の点をふまえ、教育メディアという場合のメディアを考えると次のようなものがあげられる。これまで授業の中で活用されてきた図書資料などは印刷メディアであり、VTRは映像(視聴覚)メディアである。(左表参照) また、コンピュータもメディアの一つであり、現在の性能の向上を見ているとどのようなメディア分類の位置づけになるかは一概に言えないような状況といえよう。なぜなら、コンピュータの画面には映像を映し出し、文字もむろん読みとることができ、その上リアルな音声をも再生するのである。その情報量は膨大で1枚のCDに百科事典が丸ごと入るほどである。その性能は急速に進歩し、ニューメディアとして現在教育現場への効果的活用が期待されているのである。

各種のメディア	具体例(地理を例にして)	複数概念としてのメディア	
印刷メディア	教科書・地図帳・各出版物など	メッセージ	文字、映像など
実物メディア	地球儀・T Tによる授業など	技法	プログラム教材、劇化など
映像メディア	(動画)VTR、レーザーディスクなど (静止画)スライド、写真パネルなど	教材	テープ、ディスクなど
新しいメディア	コンピューターなど	装置	放送、VTRなど
		環境	視聴覚教室など

(教職研修「キーサード時代を読む」より)

(2) メディアミックスとその教育効果



(水越敏行「メディア活かす先生」より)

メディアミックスとは、いろいろなメディアを組み合わせ総合的に利用することにより、学習指導の質を改善しその効果を高めようとするものである。中心教材であるメディアを軸としながら、VTR、映画、新聞、OHP、写真、スライドなど他のメディアを重ねて利用する。そこから伝達される情報によって子どもの理解を深め、思考を豊かにし情報処理能力をも高めていくことをねらいとしている。単品としての刺激体、単一媒体では期待し得なかった新しい質の媒体を創り出す効果があると言われている。

水越敏行氏によると、中心(主)となるメディアをどれにするのか、副次的なメディアをどれにするのかという点については「児童生徒の実態(視

聴能力や学習内容についての既有経験など）と教師の教材解釈や授業のねらい等により、最終的にはその教師によって決められるもの」としている。

ちなみに、主となるメディアは発展性があり、多くの事象とのつながりをもてるもの、副次的メディアは、強烈な刺激・情感に訴える新しい質の情報が良いとされている。

最後に、メディアミックスによく似たものとして取り上げられるマルチメディアについて付け足しておきたい。マルチメディアとメディアミックスの違いを明確にするならば、水越氏のとらえ方が良いであろう。まずマルチメディアは、ハードウェアの側からの組み合わせやシステム化を考える。これに対しメディアミックスでは伝えられるメッセージの側から考えその組み合わせや、システム化を図っていかうとするものである。

(3) メディアミックスと興味・関心

これまでのメディアの活用は教師の判断で選択され、教師により提示されるといったように一方向への活用が多かった。教師のみがメディアを扱い、生徒の認知的な面に比重を置いた活用であった。これらのことが大切であることは言うまでもない。しかし、一方子ども自身が主体となり、メディアを活用する場を設けることも大切なことである。子どもを全面に出し、興味・関心・意欲・態度といった情意的な面にも比重をかけ、学習する喜びを感じとらせること

が重視されるのである。こうした生徒の主体性といった観点からのメディアミックスの具体的な授業形態を考える場合、メディアミックスの授業を二つのタイプに大別する吉田貞介教授（金沢大学）の捉え方を参考としたい。（表参照）

生徒全員が一つの同じメディア（教材）だけで学ぶのではなく、自分の興味や理解度または好みにあったものを選び、それを自分で組み合わせていける授業を展

メディアミックスにおける学習形態

視 点	活 動 型	思 考 型
学習環境	教室外学習を重視	教室内学習を重視
学習情報	生徒自身も収集・選択活動	教師が情報を選択決定
情報内容	情報を多角的に収集	情報の内容を吟味
授業設計	生徒の情報活動が中心	情報の複合効率を重視
授業目標	拡散的(多様な方向へ探索)	集中的(一つのことを深く認識)
授業過程	情報の探索過程	思考の深化過程
授業観点	生徒の行動性	教師の指導性
評価観点	探索課程	思考深化の度合い

開していきたいものである。これらのことが興味・関心、ひいては意欲・態度をも育てることにもなる。また、メディアで表している情報や概念をつなげて考える力がつき、情報活用能力の育成も期待される。

2 情報活用能力の育成

(1) 高度情報化社会に対応して

21世紀を目前にし、情報化社会といわれ、ありとあらゆる情報が氾濫する。情報化への対応が今日的な課題として取りざたされている。この傾向は現代の子どもたちが社会人として生活する頃には、現在より一層進んでいくことが考えられる。いわゆる、高度情報化社会の到来である。これらの状況において、氾濫する情報に流されずこれを適切に処理いかにかしく生きるか、つまり情報活用能力が個人に大きく要求されているのである。

情報活用能力の育成がこれほどまでに注目され、必要とされるに至った背景は以下のことからだと言われている。

- ・情報に惑わされず主体的に判断を導き出す能力の必要性
- ・コンピュータなどにできない人間的な情報処理能力を伸ばす必要性。
- ・自己学習能力の育成の重視の風潮。
- ・生涯学習が注目される風潮とその関連。
- ・マスコミの発達、ニューメディアの出現とその拡大、そしてそれに対応するための必要性。

また、これまで情報化への対応として臨教審においても、「情報モラルの確立」「情報化の光と影への対応」などが取り上げられてきた。

(2) 学習指導要領における情報化への対応

新学習指導要領においては、情報化社会に対応した情報活用能力の育成は教科・領域に導入されている。以下の四つの教育内容に対応し位置づけられている。

- ① 情報の判断、選択、整理、処理能力および新たな情報の創造、伝達能力の育成
- ② 情報の特質、情報化の社会や人間に対する影響の理解
- ③ 情報の重要性の認識、情報に対する責任感
- ④ 情報科学の基礎および情報手段（とくにコンピュータ）の特徴の理解、操作能力の習得

社会科においては以下の点に関連し、情報活用能力の育成がとりあげられている。

- 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的に考察し公正に判断する能力と態度を育てる。〈地理的分野・目標(5)〉
- 指導の全般にわたって、資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮するものとする。そのため、地図や年表を読みかつ作成すること、新聞、読み物、統計その他の資料に平素から親しみ適切に活用すること、観察や調査等の結果を整理し報告書にまとめることなどの活動を取り入れるようにする。〈第2節・2指導計画の作成と内容の取り扱い〉

(3) 社会科と情報活用能力

社会科の学習対象とするものは、人間の行動を含めた社会的事象である。社会的事象は、空間的な広がりの中で、また時間的な経過の中で、具体的に知ることができる社会的な事柄や出来事であり、社会科の学習対象はその社会的事象のもつ意味を理解させることだとされている。社会科は、このような社会的事象を広い視野に立って認識させ、「民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎」を養おうとするものである。

一般的に社会的事象は、普遍的なものではなく移り変わっていくものである。また、それは具体的に認識しにくいものであり、目で捉えにくいものである。したがって、多種多様な情報に対処し、確実な資料に基づいて公正に判断しようとする情報活用能力を育成することは、各教科共通の課題でもあり社会科では特に重要なねらいとなっている。ただ単に生徒が受け身的に情報を受けるだけでなく、生徒自身が主体的に情報を探究・収集し、またそれを整理し表現する能力の育成が重視されているとも言えよう。

3 学校図書館の積極的な利用

(1) 学習指導要領における対応

新学習指導要領においては、生徒の自主的・主体的な学習を推進することや、指導方法を工夫し基礎的・基本的な内容を身に付けることが求められている。この観点からすると、教材・教具の適切な活用や学校図書館の機能の活用が一層重要になってくると思われる。

また、情報化が進み高度情報化社会の到来を間近にした現在、学校現場においてもこれらに適切に対応していくことも大きな課題となっている。そのためにも、学校において最も生徒たちが情報を収集する場として利用されている図書館の存在が重視される。

このような状況を考慮し、新しい総則では以下のような新たな規定を加えている。

〈中学校学習指導要録 総則〉
第6 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項
(9) 視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図るとともに、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用に努めること。

以上のように今後は、各種のメディアや視聴覚教材の発達と普及に伴い、学校図書館の資料センター、情報センターとしての機能の充実が求められるであろう。そこにおける資料の活用や調査研究などを通した生徒の自主的、主体的な学習活動の展開の場としての役割も一層重要になってくると予想されている。沖縄県においても将来、これらメディアセンターとしての図書館の位置づけが実現されることを期待したい。

(2) メディアセンターについて

メディアセンターとは、図書館と視聴覚教室などの施設がミックスされたものとされている。これまでメディアは、ハードコピー型メディアとソフトコピー型メディアに二分されてきた。メディアセンターはこのようにメディアを形態的に区別せず、統合することにより教育的効果をねらうものである。メディアセンターの意義としては次のことが挙げられている。

- ① あらゆるメディアを統合的に把握する視点を与える。
- ② メディアの集中管理の拠点となる。
- ③ 教師のメディア研究、ひいてはカリキュラム研究、教授法研究を活性化する。
- ④ 授業をはじめとする教育活動におけるメディアの活用を効率化し、活発にする。
- ⑤ 子どもの個性的な学習のための学習センターとなる。

学校の実態や利用方法により、ある程度メディアが分散されることはやむを得ないかもしれない。しかし、管理やその運用の体制が別個であるとメディアを収集するのに多くの労力を必要とすることになる。メディアセンターはこのような面からも、その設置が期待される。

(3) 学校図書館への期待

現在、単行本などを一枚のフロッピーディスクに納めたり、または百科事典をCDで利用することも可能となってきている。これらのメリットをいくつか挙げるとすれば、検索による情報収集が容易であるということと、データの蓄積化といった面である。

マルチメディアの登場や膨大な情報があふれている現代において、学校図書館の機能がただ単に書物（写真も含む）のみを用意する場に限定されているのはどうであろうか。その環境の整備と、コンピュータやVTRなどのメディアの導入が期待される。

4 教育情報の収集

(1) パソコン通信の利用

教材研究等において教師が、日頃から情報の収集と蓄積を行うことが大切なことは言うまでもない。このようにして収集した多くの情報の中から、生徒の実態にあった教材を選び、授業に効果的に活用することは、日々変化する社会的事象を扱う社会科においては特に重要なことである。しかし、これまで必要な情報を入手するためには多くの時間と労力を費やしてきた。

現在、必要な情報を容易に入手することができる手段として注目されているのが、パソコン通信である。以前はマニアックな一部の人のみの手段として捉えられてきたが、その利用者は日本全国でも数百万人を突破している。添付資料は毎日新聞のデーターを検索し、それを引き出している途中までの通信過程である。

○通信による新聞データベース検索 (2) 新聞社の利用

[illegible]

現在、新聞社の調査部などで情報の検索サービスを行っている。もちろんコピーは有料である。日頃新聞切り抜きで未収集であった情報が必要となった場合など重宝される。新聞社にこの旨のサービスを行っているかを問い合わせれば、親切に教えてもらえる。

(3) 市立図書館の利用

最近、県や市の図書館でその機能の充実が図られつつある。宜野湾市立図書館においては、IBMのコンピューターによる図書の検索ができる。この検索は、図書館の蔵書のみではなく最近発行された新書も含まれているため便利である。

○宜野湾市立図書館の書籍検索

SA7140	資料検索	上週/前週検索	該当資料数	94/01/06 16.25.50
選定No.				
PAGE 2	該当資料 (合計)	98件		
1	オーストラリア (JTBのポケットガイド)			国 古
	日本交通公社刊			
2	オーストラリア 改訂版 (イグル・ガ (ド・パシフィカ)			国 古
	文芸の日本社			
3	オーストラリア (ニユー・ガイドワールド)			国 古
	弘済出版社			
4	オーストラリア A to Z (九州フッパリー 087)			国 古
	編 武明/著 久 浩			
5	オーストラリアを知っていつか			国 新
	大野 アイチ/著 弘済出版	302.7オ		
6	オーストラリア簡解			国 在 古
	永井 浩/著 昌文社	302.7ナ		
7	愛州 (オーストラリア) が見える旅			国 在 古
	長瀬 寿丸/著 ブリタニカサービス	302.7ナ		
8	オーストラリア (グレートバリア (築地の霞と永遠に 海年増の緑))			国 在 古
	銀行 昭/日は可貴 水中撮影センタ			
CND 5:予約登録 CND 7:該当資料印刷 CND 8:貸出状況 CND 9:予約状況				
CND10:検索キー表示				

(4) 年間計画におけるメディアの位置づけ

嘉数中学校において、利用可能なメディアを今回年間計画の中に位置づけた。本校のように規模の大きな学校では、こうした管理面での対応が必要である。これら、学校において活用できるメディアがどのようなものがあるかを教師が把握することにより、児童生徒の実態（視聴能力や学習内容についての既有経験など）や教師の授業のねらい等によりメディアを効果的に活用する授業設計が可能となる。

〈年間計画におけるメディアの位置づけ〉

単 元 名		嘉数中学校の利用可能メディア	
		メ デ ィ ア 名	発 売 元
第Ⅰ部 世界とそのいろいろな地域			
第1章 いろいろな国々、いろいろな生活			
4 月	第2章 さまざまな地域 第1節 世界の国々 1～7 知っている国をあげよう、 国の名前・近い国と遠い国・北の国 南の国・国の面積・海に囲まれた国や 海に面していない国・国の形を調べて みよう	「掛け地図・世界大地図」 「地球儀 大(2) 小(10)」 「掛け地図・現代新世界全図」 「掛け地図・世界地図」 「掛け地図・正積行政世界全図」 「VTR・地図帳の見方、使い方、世界編」 「世界地理Ⅱ23」 「世界地理Ⅰ2」	新日本教文 全教図 全教図 全教図 帝国書院 全教図 全教図
	第2節 人々の生活と環境 1～6 アラスカ・トンガ・ペルー・ オランダ・イラン・インドの人々 のくらし 7 世界のさまざまな衣食住 8 いろいろな衣服 9 世界のさまざまな食事	「掛け地図・世界大地図」 「掛け地図・現代新世界全図」 「掛け地図・世界全図」 「VTR・食べる」 「VTR・北極海沿岸にすむ人々」 「VTR・牧草と水を求めて」 「VTR・タイの生活とメナム川」 「VTR・デンマークの畜産」 「開発の進むアラスカ」 〈VTR・世界の人々の生活と環境〉 「世界地理Ⅱ24、40」 「世界地理Ⅰ12～17」	新日本教文 全教図 全教図 アポロン アポロン アポロン アポロン アポロン 帝国書院 全教図 全教図
5 月	第2章 さまざまな地域		
	第1節 アメリカ合衆国 1 概観 2 広大な国土と自然 3 個性豊かな大都市 4 世界の食 糧倉庫 5 最先端をゆく工業 6 多民族から成り立つ国	「掛け地図・世界全図」 「掛け地図・新北アメリカ州大地図」 「空中写真集・世界の自然と産業」 「世界地理Ⅱ34～39」	全教図 全教図 朝日教育 全教図
6 月	第2節 ロシア連邦とまわりの国々 1 概観 2 広大な土地と多様な民族 3 モスクワ市民のくらしの変化 4 集団で行われる農業 5 豊富な地 下資源をいかした工業開発 6 シベリア の開発とその課題	「掛け地図・新ヨーロッパ大地図」 「掛け地図・正積行政世界全図」 「VTR・ソビエトの自然と人々」 「空中写真集・世界の自然と産業」 「世界地理Ⅱ29～33、増2」	全教図 全教図 帝国書院 朝日教育 全教図
	第3節 EC諸国 1 概観 2 共通する文化 3 EC諸 国 4 国境をこえて行き来する資源・ 製品・労働者 5 ECを自由に移動す る農作物 6 観光客	「掛け地図・新ヨーロッパ大地図」 「VTR・ヨーロッパの自然と人々」 「空中写真集・世界の自然と産業」 「世界地理Ⅱ25～28、増1」	全教図 帝国書院 朝日教育 全教図
7 月	第4節 西アフリカ 1 概観 2 自然と人々のくらし 3 広がる砂漠 4 発展をめざす新 しい独立国 5 今も強いヨーロッパ の影響 6 農作物や鉱産物の輸出にた よる経済	「掛け地図・新アフリカ州大地図」 「掛け地図・正積行政世界全図」 「VTR・中アフリカ 南アフリカ」 「VYT・西南アジア 北アフリカ」 「空中写真集・世界の自然と産業」 「世界地理Ⅰ19～22」	全教図 全教図 学研 学研 日新教図 全教図
	第5節 東南アジア 1 概観 2 稲作 3 輸出入農作 物の栽培 4 熱帯雨林の伐採と環境 問題 5 工業化の進展と農村の変化 6 近代化にともなう伝統的社会的変 化	「掛け地図・新アジア州大地図」 「VTR・東南アジア 南アジア」 「空中写真集・世界の自然と産業」 「VTR・タイの生活とメナム川」 「VTR・熱帯雨林の減少、酸性雨」 「世界地理Ⅰ9～11、増1、2」	全教図 学研 日新教図 アポロン 東京書籍 全教図

9月	第6節 中国 1 概観 2 巨大な人口 3 地域によって異なる食料生産 4 大きく変化した農村の暮らし 5 大都市に住む人々の暮らし 6 近代化のすすむ工業と沿岸地域の変化	「掛け地図・新アジア州大地図」 「VTR・東アジア」 「空中写真集・世界の自然と産業」 「VTR・環境教育ビデオ 世界地理」 「世界地理Ⅰ5～8」	全教図 学研 朝日教育 日本教材 全教図
第Ⅱ部 日本とその諸地域			
第1章 世界から見た日本			
9月	第1節 国土の成り立ちと自然 1 日本の位置と範囲 2 世界の地形と日本の地形 3 世界の気候と日本の気候 4 災害の多い日本列島	「掛け地図・世界大地図」 「VTR・あなたは琉球を知っているか」 「VTR・地図帳の見方、使い方、日本編」 〈日本全図なし〉 「日本列島誕生物語」 「日本地理資料掛け図上3～12、19、20」	全教図 帝国書院 学校図書 中央宣興 新日本教文
	第2節 日本の人々の生活 1 世界から見た日本人の生活 2 窓の大きな日本の住居 3 和服の特色と洋服の普及 4 和食の特色と多様化する日本の食生活	「VTR・食べる」 〈VTR・日本の地域と生活文化〉	教育出版 帝国書院
第2章 身近な地域			
10月	地域の調査活動 ・地域の調査に役立つ地図 ・地形図の読み方 ・野外調査	「VTR・地図帳の見方使い方」 「VTR・あなたは琉球を知っているか」 「VTR・地形図を読む」 「日本地理資料掛け図上1、2」 「空中写真Ⅱ6」 「新読図指導掛け図」	帝国書院 学校図書 教育出版 新日本教文 日新教図 全教図
11月	第1節 1 九州地方 1 位置と地域の発展 2 有明海周辺の低地の開発 3 火山地域に住む人々の暮らし 4 シラス台地の開発と人々の暮らし 5 暖かい沖縄の人々の暮らし 6 離島の暮らし	「あなたは琉球を知っているか」 「九州地方の風土と人々」 「掛け地図・九州地方」 「パネル・日本の地理」 「最新沖縄全図」 「沖縄県大地図」 「日本地理資料掛け図下1、2、3」 「日本地理Ⅱ1～5、増1」 「空中写真Ⅰ2、3、16、22Ⅱ1～3、12、19」	学校図書 帝国書院 全教図 全教図 琉球教育機材 新日本教文 新日本教文 全教図 日新教図
	2 中国・四国地方 1 広島のおゆみ 2 瀬戸内工業地域と水島コンビナート 3 瀬戸内工業地域の課題と新しい工業地域 4 瀬戸内のみかんづくり 5 高知平野の野菜づくり 6 地域おこし	「掛け地図・中国四国地方」 「掛け地図・中国思考地方」 「VTR・中国、四国地方の風土と人々」 「日本地理資料掛け図上16」 「日本地理資料掛け図下4～6」 「日本地理Ⅰ6～11、増2」 「空中写真Ⅰ4、9、10、11Ⅱ18、20」 「空中写真Ⅱ4、9」	日新教図 全教図 帝国書院 新日本教文 新日本教文 全教図 日新教図 日新教図
12月	第2節 1 近畿地方 1 中央低地に広がる大都市圏 2 西日本の中心都市大阪 3 伝統的な文化や産業を守る奈良・京都の人々 4 国際貿易港のある神戸 5 阪神工業地帯 6 琵琶湖・淀川水系の水利用と環境保全 7 北部や何部の変化	「掛け地図・近畿地方」 〈近畿地方の風土と人々〉 「日本地理Ⅰ12～16」 「日本地理資料掛け図下7～10」 「空中写真Ⅰ1、5～7、20、23Ⅱ21、22、23」 「空中写真Ⅱ5」	全教図 帝国書院 全教図 新日本教文 日新教図 日新教図

1 月	3 関東地方 1 首都東京 2 東京の中心部の変化 3 住宅・通勤問題 4 新しい都市づくりの課題 5 湾岸地域の変化 6 京浜工業地域と北関東の工業地域 7 大都市と結びつく農業と観光	「掛け地図・関東地方」 「VTR・関東地方の風土と人々」 「VTR・海洋汚染・都市生活型公害」 「日本地理II23～28」 「日本地理資料掛け図上21、22」 「日本地理資料掛け図下15～17」 「空中写真I17、18、24、25II14、15」	全教図 帝国書院 東京書籍 全教図 新日本教文 新日本教文 日新教図
	第3節 1 東北地方 1 農村の伝統文化と東北地方の祭り 2 稲作地域の変化 3 東北地方の工業化と農村の変化 4 果樹栽培地域の変化 5 東北新幹線・東北自動車と地域の変化	「掛け地図・東北地方」 「VTR・東北地方の風土と人々」 「日本地理II30～35」 「日本地理資料掛け図下18、19」 「空中写真I12、13、19」 「空中写真II11、7、8、26」	全教図 帝国書院 全教図 新日本教文 日新教図 日新教図
2 月	2 北海道地方 1 冷涼な気候と人々の暮らし 2 開発の歴史と北海道の風土 3 ゆれ動く北海道の農牧業 4 200 海里時代の農牧業 5 札幌の発展とこれからの北海道	「掛け地図・新北海道地方大地図」 「掛け地図・北海道地方」 「VTR・北海道地方の風土と人々」 「日本地理II36～41、増1」 「日本地理資料掛け図下20～22」 「空中写真I8、11、26II16」	全教図 全教図 帝国書院 全教図 新日本教文 日新教図
第II部 国際社会における日本			
2 月	第1章 日本と世界との結びつき		
	第1節 航空交通や通信による結びつき 1 航空交通によってせまる地球 2 通信の発達	「掛け地図・世界大地図」 「掛け地図・世界全図」 「VTR・国際社会と日本」 「日本地理資料掛け図上13～15、17、18」 「日本地理II42」 「日本地理II43」 「日本地理II44」 「日本地理II44」	新日本教文 全教図 教育出版 新日本教文 全教図 全教図 全教図 全教図
	第2節 人やものの移動による結びつき 1 急増する海外渡航者と外国人労働者 2 貿易による結びつき		
	第3節 経済協力を通じた結びつき 1 年々増加する経済協力 2 人による経済協力		
3 月	第2章 日本と国際社会		
	第1節 日本とオーストラリア 1 行ってみたい国オーストラリア 2 貿易から見た日本と豪 3 交流から見た日本と豪	「掛け地図・新オセアニア州大地図」 「現代オーストラリア州図」 「VTR・オーストラリア」 「VTR・南半球の牧畜」 「オセアニア両極」 「世界地理II42、43、44」	新日本教文 学研 帝国書院 アポロン 学研 全教図
	第2節 日本とサウジアラビア 1 石油を通じた結びつき 2 サウジアラビアの国づくりと日本の技術協力	「掛け地図・新アジア州大地図」 「VTR・西南アジア・北アフリカ」 「日本地理II増2」 「世界地理I17」	全教図 学研 全教図 全教図
	第3節 日本とブラジル 1 移民を通じた結びつき 2 経済協力を通じた結びつき	「掛け地図・新南アメリカ州大地図」 「VTR・南アメリカの自然と人々」 「世界地理II41」	全教図 帝国書院 全教図
	第4節 日本と大韓民国 1 日本と深いつながり 2 韓国の工業化のあゆみ 3 日本との貿易からみた結びつき	「掛け地図・新アジア州大地図」 「VTR・東アジア」 「世界地理I3、4」	全教図 学研 全教図

V 授業実践

社会科学習指導案

日 時：平成6年度1月28日（金）5校時

学 級：宜野湾市立嘉数中学校 1年4組

（男子21名 女子19名 計40名）

授業者：伊 波 寛 仁

1. 単元名 第2章 日本と国際社会

2. 単元について

情報化社会が叫ばれる現代は日々めまぐるしく変化し、国際化社会も大きく進展し多様化している。このような状況の中で、日本の果たすべき役割やその動向が世界から注目されている。

学習指導要領によると本単元は、「世界の国々と日本との相互依存関係や競合関係などに着目させ、世界における日本の地域的特色や役割などについて多面的に考察させる」とある。日本と世界各国との国家間の関係を広い視野からとらえさせるため二つ程度の国を選定して取り上げ、窓方式でいうと日本から世界を概観する単元となっている。

広い視野からとらえるということは、貿易や海外援助などの物質や金銭の関係のみならず人的交流や文化的交流をも含めて考えることが必要であるだろう。現在これらのことが、世界の中の日本において他国との関係の基本的土台となるであろうし、他国との関係を進展させる基礎ともなり得ると考えられる。よって生徒たちの知識や興味・関心の深さや近さから、あるいは比較的生徒たちにとっては遠く感じる幾つかの国を取り上げて構成したい。

また、今回検証授業で取り上げるオーストラリアは「相互依存関係」といった面からみると、まさに格好の教材といえるだろう。オーストラリアと日本の関係は実感しにくいのだが、現状として経済的相互関係は大きなものが存在する。それは原料という形での輸入からである。しかしこれら素材は製品と違って私たちの生活では実感しにくいものばかりである。

このように、「見えない系」とまで言われる日本とオーストラリアとのつながりを生徒に気づかせ、ただ単に日本とオーストラリアの関係が貿易上の数字やオーストラリアへの観光客数の多さのみの関係ではなく、現実的には日常生活そのものや文化的交流においても深い関係が存在するということに気づかせたい。これらのことは、これからの国際化の時代に生きる生徒たちにとって大切なことだと考えられる。

3. 単元の目標

- (1) オーストラリア・サウジアラビア・ブラジル・大韓民国と我が国との観光・貿易・文化・エネルギー資源・経済協力や移民など、さまざまな面から広くその関係を考察させる。
- (2) (1) の学習を通して日本と世界の結びつきを面的ではなく多面的にとらえさせ理解させる。
- (3) 資料を探索・収集し追究することにより、日本と世界の様々な結びつきを具体的に浮かび上げらせそれを実感させる。

4. 単元の指導計画

- (1) 日本とオーストラリア・・・・・・・・・・ 3時間

- ① 「日本とオーストラリアの関係」についての情報（資料）探索・収集（本時）
- ② 「日本とオーストラリアの関係」の追究
- ③ 「日本とオーストラリアの関係」のまとめ

- (2) 日本とサウジアラビア・・・・・・・・・・ 2時間

- ① 石油を通した結びつき

- ② サウジアラビアの国づくりと日本の技術協力
- (3) 日本とブラジル・・・・・・・・・・ 2時間
- ① 移民を通じた結びつき
- ② 経済効力を通じた結びつき
- (4) 日本と大韓民国・・・・・・・・・・ 3時間
- ① 日本との深いつながり
- ② 韓国の工業化のあゆみ
- ③ 日本との貿易から見た結びつき

5. 学習過程

時 間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
第 1 時 オリエン	オリエンテーション。 オーストラリアについて知っていることをあげる。 VTRを視聴して様々な自然、雄大な国土などオーストラリアの魅力に触れる。	チーム編成、VTR・コンピューターの利用の仕方など。 新しい単元に導入するにあたって関心をもたせる。 あまり、深入りしない。
第 2 時 (本時) 導 入	作業学習 日本とオーストラリアの関係についてチームで協力しながら情報を探索・収集し、疑問を持つ。	生徒の視線の高さにたってテーマを設定する。(実物メディアとクイズ化) より興味・関心の育つことにつながるクイズとなるよう計画する。 他、詳細は本時の指導にゆずる。
第 3 時 つ か む	日本とオーストラリアの関係について集めた情報や疑問点からさらに学習を追究し深める。 チームでの話し合い。	生徒が集めてきた情報や疑問を焦点化していく。切り返しの発問を行う。 例) ・いつ頃から関係は深くなってきたのかな？ ・どうして貿易が多いと関心が高くなるのかな。 ・同緯度の隣人とは誰が言ったの？
第 4 時 まとめる	これまでの授業のまとめを行う。	大国主義的な発想や大国はいけないと言ったテーマ議論など両極端な結論に導かないように留意する。

6. 本時の指導

- (1) 題材名 「日本とオーストラリア」
- (2) 本時の目標
- ① 生徒自ら興味・関心にもとづいてメディアを選択し、データ(情報)を探索・収集しようとする。
- ② 意欲的に自ら行動し、授業に参加することができる。
- ③ 日本とオーストラリアの関係について、貿易と文化交流の具体的な資料を収集し、まとめることができる。
- (3) 本時の観点別評価の視点

観 点	評 価 の 視 点
関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 (本時)	日本と豪の関係について、自らメディアを選択し仲間と協力し積極的に情報を探索・収集する。
社 会 的 思 考 ・ 判 断	日本と豪の関係について、収集・整理した情報により自分なりの疑問や意見を持つことができる。
資 料 活 用 の 技 能 ・ 表 現 (本時)	メディアを活用し、日本と豪の関係についての具体的なデータ(情報)をシートに整理しまとめることができる。
知 識 ・ 理 解	日本と豪の深い関係について、貿易と文化交流の面から具体的に説明することができる。

本時の評価；各メディアを自分の興味・関心にもとづいて利用し、作業学習に取り組んだか。また最後まで意欲を持って作業をしていたかなどを参考にし、作業状況の分析や机間指導による観察、生徒とのやり取りを通して評価する。(観察法)

生徒が提出するデータシートの作業状況や、自己評価から分析し評価する。

(4) 生徒の実態

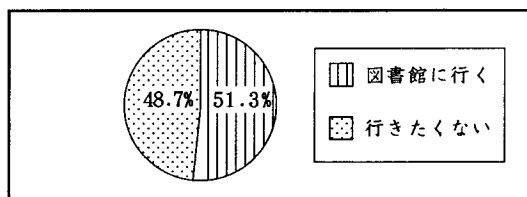
(ア) アンケート集計の結果から

9教科の中で社会科が好きと答えたのは、5クラス中一番少なく13人であった。一番多い回答をしたクラスが24人であるから、それと比べると少なく感じる。社会科の嫌いな理由としては、「暗記することが多すぎる」「本の字がいっぱいあってやる気をなくす」といった回答があった。

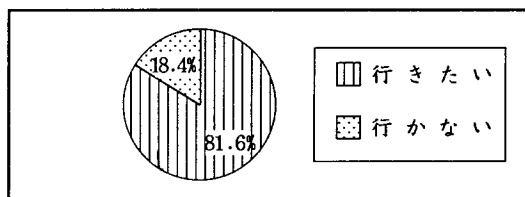
よって、他の調査からも学級の実態としては、良い結果がでてきていない。例えば図書館に調べ学習に行く意欲があるか、といった問いには半数近くの生徒が「きつから」「面倒くさいから行きたくない」と消極的な回答をしている。さらに、行きたくない理由には、「本を読むのが好きではない」「静かすぎる」「暇だから」などがあがっていた。しかし、興味深いことに、「図書館にいろいろなメディアが用意されているのなら行きたい」という意欲的な回答を見せる生徒が、学級のほとんどを占めていることである。(右円グラフ参照)

○ あなたは社会科が好きですか？

回 答	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組
好 き	26	17	29	13	20
嫌 い	3	3	2	2	2
どちらでもない	7	9	8	19	11



○ あなたはもし調べ学習をしなさいといわれ、教科書だけでなく図書館に行っても良いと言われたら喜んで図書館に行きますか？



○ あなたは図書館に本以外のメディアがあれば、(例；VTRとかコンピュータなど)があれば行きたいですか？

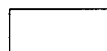
(5) チーム編成

日頃のグループ編成は、4人から6人の編成である。しかし、今回は教室と違って座席の方も柔軟に対応できる。また、コミュニケーションの成立といった面からも、3人編成が理想的であろうと思いA～Mのチームを作った。学級との交流は何カ月ものブランクがあるため、メンバーは生徒たちに話し合わせ、自由に構成させた。

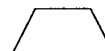
	チ ャーム	氏 名		
男	Aチーム	武 田 学	上 原 正 之	城 間 カズオ
	Bチーム	中 村 貢	金 城 正 樹	川 満 文 貴
	Cチーム	天 久 真 吾	渡 慶 次 道 夫	大 嶺 浩 一 郎
	Dチーム	大 城 圭	大 城 俊	仲 里 公 志
	Eチーム	上 間 秀 光	石 原 昌 太 郎	知 念 賢
	Fチーム	上 地 秀 一 郎	玉 那 覇 明 弘	宮 下 忍
	Gチーム	比 嘉 藤 人	横 田 貴 明	松 田 裕 毅

	チ ャーム	氏 名		
女	Hチーム	辺 土 名 朝 代	桃 原 麻 里	島 袋 洋 子
	Iチーム	福 覇 美 鈴	東 江 望	上 江 州 美 代
	Jチーム	板 井 聖 子	平 良 優 子	松 浦 千 代
	Kチーム	具 志 堅 綾 乃	鶴 田 久 美 子	呉 屋 夏 子
	Lチーム	兼 城 舞 子	富 山 美 和 子	西 銘 美 乃
	Mチーム	中 亜 希 子	宮 城 里 絵	儀 間 優 子

(6) 本時の展開



— 斉



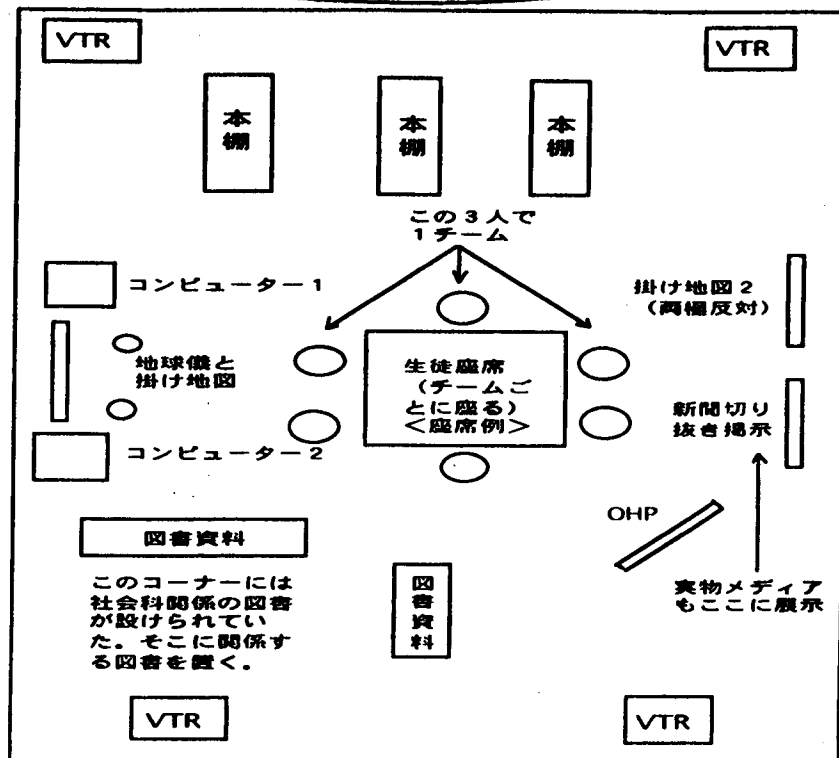
個別・チーム

★関心・意欲・態度

☆資料活用の技能・表現

	展開と形態	生徒の活動	教師の支援と評価	メディア
導入	スタート 事実確認 課題把握	(前時の確認) 1. アンケート集計結果と統計資料を確認する。 ・オーストラリアについての関心が高いことを知る。 ・クラスの実態・意識を知る。 2. 実物メディアに興味・関心を持ち、日本と豪に関連するメディアかどれかを考える。 ・関係する実物メディアはどれだろうか？ ・どのような理由でその実物メディアを選んだのか？ ・教科書や各メディアから調べたみようという意欲をもつ。	◎OHPシートや実物メディアを提示することにより、今時の学習の導入へと思いがつながるようにする。 ◎実物メディアの掲示は、生徒の視線にたちクイズ形式とし、今時の活動の方向性を持たせたい。 ◎根拠のない発言に対し切り返しの発問をし、作業する意欲へとつながるようにする。ただし深入りはしない。 ★実物メディアにより、日本と豪の関係について一つの手がかりを得て関心をもつ。	OHPボード 実物メディア
	情報の探索・収集	3. 各チーム(3～4人)で協力し合って自分の調べてみたいメディアを選択・活用し、データを探索・収集しようとする。 ・興味のあるメディアを選ぼうとする。 ◇各チーム話し合い、自分たちの興味・関心によってメディアを選択し、情報を探索・収集する。 ◇収集した情報を整理しまとめる。 ◇どのメディアを選択して良いかわからないチームは、先生や仲間にメディアについて情報を求める。 ◆自らメディアを選択できず、うろうろとする。 ◆メディアを選択しようとしないうち、また選択してもおしゃべりをしたり、ぼんやりとして興味・関心を見せない。 ◇疑問点は仲間や先生に質問する。 ◇より詳しい資料を求める。 ◇データ探索・収集を終える。	◎日本と豪に関係する資料である各メディアを用意し、生徒が自由に選択できるようにする。 ◎学習内容を精選し、日本と豪の貿易・文化交流に関する資料にしぼる。 ◎チーム同士の交流により、情報交換ができるように声掛けをする。 ★日本と豪の関係についての具体的資料を、導入の実物メディアをヒントに進んで調べようとする。 ☆収集した情報をメモやグラフ化し整理できる。 ●メディアについての情報を提供する。 ●より理解しやすいと思えるメディアを紹介する。 ◎中間に諸注意等の指示を全体に与える時間を設ける。 ◎終了したチームには、データを収集し出てきた疑問点を話し合わせるかまたは、他チームの援助をさせる。	各種のメディア VTR コンピュータ 教科書 地図帳 図書資料 新聞切り抜き 資料プリント 地球儀 掛け地図 など
まとめ	まとめ END	5. 本時の疑問点及び感想をまとめ、自己評価をデータシートに記入する。 ・実物メディアについてふれ次時への意欲を持たせる。	◎他チームがどのようにデータをシートに整理・まとめをしているか交流させる。 ★データシートのまとめを最後までやり通す。	ボード

各メディア図書館配置図



- ・ (実物メディアについて)

本単元においては、日常の生活では実感できないオーストラリアと日本の関係に気づかせるといった一つのねらいがあった。当初、セーターなどの製品を活用しようとも考えた。しかしそれでは本単元の学習目標にたらずして、セーターなどの製品だと主たるメディアとしてのインパクトが弱いと感じ、原料である鉱産物などを活用することにした。その他、地球儀などを準備したのだがその一つとして、両極を反対にした掛け地図を一つ掲示した。「あれ、おかしいな？」と生徒が気づき、それをきっかけに学習を深めるようしむけるねらいからである。

- ・ (新しいメディア；コンピュータについて)

コンピュータは、ヒントカード的な活用を考え設置した。本時においてはあえて詳しい説明はしなかった。興味のある生徒がコンピュータを活用したなら、その報酬としてヒントがもらえるといった程度の活用である。また、世界の標準時はコンピュータの便利さが良く出ていると考え、また生徒たちが結構興味を示すのではないかと思い実験的に活用した。将来的には検索できるシステムを考えている。

- ・ (映像メディア；VTRについて)

VTRは4分程度に簡単に編集した。タイトルは、本時の学習内容である「産業」「文化交流」の二つに絞った。生徒がこの二つのタイトルから、自分の興味にそって選択できるようにした。ちなみに内容についてはいっさい触れずゼロ発進方式で視聴させた。

本時においては、おもにNHKの「オーストラリア」を活用した。編集時間は簡素化するとしたねらいから約30分程度で済ませた。

- ・ (印刷メディア；図書、新聞切り抜き)

学校図書館の蔵書のみならず、宜野湾市立図書館の図書も数冊活用した。本来なら生徒自身に、市の図書館を活用させるべきだと思う。新聞切り抜きはこれまで蓄積していたものや、沖縄タイムス社の検索情報サービス、そしてパソコン通信より収集した。

<印刷メディア；図書>

書名	出版社	書名	出版社
オーストラリアが見える旅	フリープレスサービス	最新データ沖縄1992	沖縄タイムス社
オーストラリア6000日	岩波書店	地図と絵で見る世界の工業・資源	ポプラ社
もっと知りたいオーストラリア	弘文堂	地図と絵で見る世界の農業・漁業	ポプラ社
地球を旅する地理の本（北アメリカ・オーストラリア）	大月書店	私たちが世界の国々結び合う日本と世界	学研
オーストラリア、ニュージーランド（ワーキングホリデー）	三修社	アジア②オセアニア	学研
成功する留学（ワーキングホリデー完璧ガイド）	ダイヤモンドビッグ社	現代知識情報辞典Ⅰ	学研
私たちが世界の国々（アジア・オセアニア）	学研	現代知識情報辞典Ⅱ	学研
世界の子どもたち（オーストラリア）	偕成社	日本国勢図録	国勢社
先住民シリーズ4（オーストラリアのアボリジニー）	リブリオ出版	世界国勢図録	国勢社
地球の歩き方（オーストラリア）	ダイヤモンドビッグ社	日本のすがた	国勢社
図鑑みんなの産業シリーズ・交通と貿易	学研	朝日ジュニア年鑑	朝日新聞社
ビジュアルシリーズ、世界発見・東南アジア。オセアニア	同朋舎出版	世界年鑑93	共同通信社

<OHPシート>

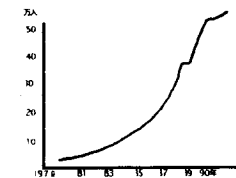
～1年4組のみなさんに聞きました～
南半球の国であなたが行ってみたい国は？

国名	人数	国名	人数
オーストラリア	30	その他	3

～高松中学校1年生のみなさんに聞きました～
南半球の国であなたが行ってみたい国は？

国名	人数	国名	人数
オーストラリア	101	アフリカ	1
ブラジル	5	インドネシア	1
ニュージーランド	5	シンガポール	1
アルゼンチン	1	ペルー	1
チリ	1	トンガ	1
インド	1		

オーストラリアへ行く日本人観光客
～観光客数の変化～



オーストラリアについてあなたが知っていることは？

コアラ
カンガルー
きれいな海
でかい
火事
虫を食べる人がいる

<印刷メディア；新聞切り抜き>

見出し	小見出し	新聞社名	月 日
豪の小中学校で日本語熱	日本人いない地域でも 文化体験センターで茶道、お手玉、かるた体験	タイムス	94'1.5
若者の間で高まる日本語学習熱	豪州マッコリー大日本学科長・植原三鈴さんに聞く	毎日	93'7.14
オーストラリアの私立高校と姉妹都市締結	茨城県立牛久高校	毎日	93'10.10
待ったなし品質取引・豪州糖業を見る<1>～<2>	豪州、年間67万トン対日輸出	タイムス	93'9.14 93'9.16
豪の学生11人を歓迎	キジムナーフェスタに参加	タイムス	94'1.22
幕開けるアジア・太平洋新時代	アジア・太平洋をめぐる協力関係	タイムス	94'1.1
2000年五輪 シドニーに	決選投票で北京を逆転・IOC総会	毎日	93'9.25

<実物メディア>

その他の実物メディア	
1	地球儀（2）
2	掛け地図（世界全図）
3	掛け地図（両極が反対の地図）

<コンピュータ>

マッキントッシュ	内 容
1	コンピュータ1 図書統計資料一覧
2	コンピュータ2 世界の標準時

<実物メディア>

実物メディア		実物メディア	
1	鉄鉱石	6	サトウキビ
2	石炭	7	塩
3	ボーキサイト	8	写真パネル
4	羊毛	9	日本語を学ぶ生徒たちの様子写真パネル
5	雪のかかったクリスマスツリー		

<映像メディア；VTR>

タイトル	出版会社
オセアニア両極（静止画ビデオ教材）	学 研
オーストラリア	N H K
地球の歩き方（オーストラリア）	ダイヤモンド社
南半球の牧畜・温帯の暮らし	アポロン
NHK教育テレビ番組地理	N H K

(8) データシートと授業後の反省

データ (情報) シート

1年4組3番 氏名(お名前) 王様様

○ あなたがこれ!と思う資料メディアはどれですか?記入しよう。

しりょう

○ 今日の学習事項「オーストラリアと日本の関係」について、興味のあるメディアを選択しデータ (情報) を集めてみよう! (オリエンテーションで注意: 「?」を意図しながらね!)

○ あなたが選んだメディアは? (調べた順序を書き入れよう)

(VTP) → (地球儀) → (しりょう) → (パソコン)

日本とオーストラリア

集めたデータ (イラストやグラフなどを書いてもいいですよ!)

オーストラリアへの輸出

日本への輸出

オーストラリアの鉄鉱石は日本へ3割輸出している。
1日20kを越す。

オーストラリアの大半には、日本語や歴史、経済を学ぶコースがあり、日本研究もさかん。

○ 今日の授業の感想 (何でもいい!好きなコーナー)

○ 今日の授業の自己評価を記入しよう。

1. 授業には積極的に参加できましたか? できた できなかった ・ どちらでもない
2. その理由や原因は? (おもしろかった)
3. 仲間と協力しあって学習できましたか? できた できなかった ・ どちらでもない
4. 様々なメディアをうまく利用できましたか? できた できなかった ・ どちらでもない
5. その理由は? (しりょう、さ、かけがえがあったから)
6. 今日の授業は楽しかったですか? はい ・ いいえ ・ どちらでもない
7. どのようなところが? (おもしろい、さ、かけがえがあったから)

★ たくさんの先生たちの中での授業、ごとうまででしたー!

○授業後の反省

(授業者反省)

- ・メディアの紹介を軽視した。オリエンテーションでも一通り行ったのだが、本時においても再度必要であったと思う。
- ・授業時間の配分を誤ったと思う。もっとゆとりをもって取り組みたかった。
- ・なにからなにまで、生徒や教師にとって初めて行う授業形態であり不安も大きかったが、予想以上に生徒たちが積極的に活動した。
- ・5校時の授業であり普段ならだらけがちであるが、生徒の表情も生き生きとしていた。
- ・子どもから学ぶべき点が多い授業であった。

(指導助言)

- ・図書館の活用は以前マナー的な指導に重点がおかれていた。現在それが改められ「利用と指導」といった位置づけがされ、教科と図書館の融合がされている。利用方法の指導も必要である。
- ・情報を整理するのに時間がかかる生徒が数名見られた。
- ・「学び方」の訓練がもっと必要なのでは。

(9) 生徒の声と活動の様子



新聞にはいい情報はないかな？



この真剣な様子！

○授業後の生徒の声

・チームで協力して授業に参加できた。・教科書以外で調べられてやりがいがあった。・調べていくうちにどうなるかおもしろくなりそうだった。・わからないところはメディアを変えて調べられた。・調べるメディアがたくさんあって良かった。・わかりやすいメディアだった。・いつもの授業と違って楽しかった。・眠くならなかった。・また、このような授業をやってほしい。など

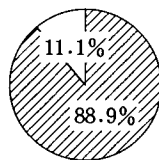


チームで協力しあって!!



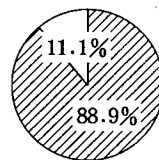
VTRは理解しやすい!?

○仲間と協力してできましたか？



☒ 協力できた
☐ できなかった
☐ どちらでもない

○今日の授業は楽しかったですか？



☒ 楽しかった
☐ 楽しなかった
☐ どちらでもない



先生にも質問！この掛け地図へん!?



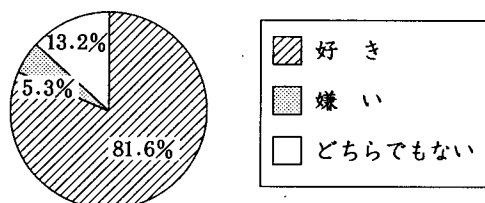
コンピュータはどうか？

IV 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

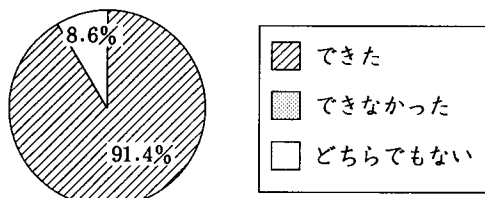
- (1) メディアの扱い方の指導にあまり時間もとれず、初めて行う図書館での作業学習でもあり、生徒たちは戸惑うのではと心配した。しかし、子どもは未知の力を持っているものである。苦もなくVTRやコンピューターを使いこなし、積極的にいろいろなメディアを利用して授業に参加していた。(円グラフ中) 生徒はできるのだろうかと「心配」するより子どもの「可能性」

- いつもの教室で行う調べ学習の授業と比べてどのように感じましたか？



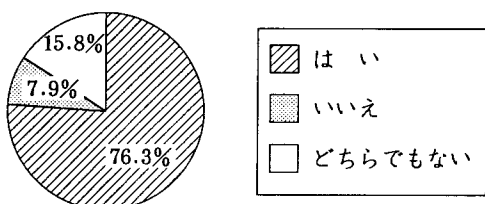
を信じ、まず実践することの大切さをあらためて認識させられた。

- 授業には積極的に参加できましたか？



- (2) 当初、図書館に調べ学習にいく意欲のある生徒は学級の約半分といった程度であった。しかし、授業後のアンケートの結果では約80%の生徒が、さまざまなメディアを利用できる図書館での授業に好感を持ったようである。(円グラフ上)

- 用意されたメディアはわかりやすかったですか



- (3) 生徒たちは中心となる実物メディアにそって調べ学習を進めたのだが、それぞれ自分の興味や関心に基づいてメディアを選択し情報を集めている。生徒の活動とデーターシートを分析すると、それぞれの生徒一人ひとりの学習スタイルの違いが微妙ではあるが見られた。また、それぞれの個性的な一面が、一斉授業時より顕著に観察することができる。

- (4) 生徒の声から「教科書以外のいろいろなメディアが利用できてやりがいがあった」という声が多かった。メディアの学習内容を絞ったことにもあるが、メディアがわか

りやすいと回答した生徒が8割近くいた。(円グラフ下)

- (5) これまで4～6人のグループを編成してきたが、今回3人のチームを編成した。予想以上に生徒の反響が大きく、「友達と協力し学習できたので良かった」という声が多かった。生徒⇄生徒、生徒⇄メディア、教師⇄生徒といった関係が成立し興味深い授業展開となった。
- (6) 教師の情報収集に力を入れた。以前から取り組んでみたかったパソコン通信による新聞データの活用、市立図書館や他の機関の積極的利用など得るものが多かった。これら収集したデータにより、教材研究に対する認識が以前に増して深まった。
- (7) 学校現場の活用可能なメディアを整理し、年間計画の中に位置づけることができた。これまでどのようなメディアが利用できるのか、全体的に把握されていなかったため大いに役立った。また、「こんなにいい資料もあったのか」といったように多くの収穫があった。

2 今後の課題

教育において、その理論・実践はそれのみ単独には成り立っていない。それぞれが関係し、支えあって成り立っている。そのため私の研究した領域のみで満足できるものではなく、多くの課題が残された。その中からいくつかあげたい。

- 学校現場に戻り、メディア利用のためのより詳しいメディアリストを作成したい。
- 扱う学習内容において、どのような質のメディアをどれくらい組み合わせることが、最も教育効果を高めるのか、さらに実践を重ね研究を深めていきたい。
- 調べ学習や課題解決学習における「学び方」の研究をより深く追究したい。
- 検証授業では小単元のための授業実践であったが、今後は長期間での取り組みと実践も繰り返すよう努力したい。また、メディアを活用し、生徒が主体となる授業を今回作成した年間計画を基に、より詳しく位置づけていきたい。

3 おわりに

6カ月という研修期間を、多くの先生方の激励、ご指導により終えることになりました。自分一人の力による研修ではなく、まわりの多くの先生方に助けられたおかげで充実した研修となりました。

「終わり」とは書いたものの、自分自身の気持ちのうえでは「はじまり」という言葉が大きなものとなつてのしかかっている状態です。学ぶべき点が多々あり、今後の課題やめざすべき目標も多く残る結果となりました。

お世話になった先生方への恩返しをする意味においても、研究期間で得た現在の気持ちを忘れず、いつまでも生徒と共に学び続ける姿勢を持ち続け、研修を積んでいきたいと思います。お話をいただいた各先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

〈おもな参考文献〉

水越敏行	子どもの情報能力を育てる	ぎょうせい	1988
水越敏行	メディアを活かす先生	図書文化	1990
水越敏行	個を生かす教育	明治図書	1992
吉田貞介	映像を活かす授業	ぎょうせい	1988
山本政男編	情報化教育読本	教育開発研究所	1990
大森照夫他4名編	社会科教育指導用語辞典	教育出版	1992
藤沢教育文化センター	学校教育とコンピュータ	明治図書	1989
日本理科教育学会編	理科教育学講座	東洋館出版	1992
全国教育研究所連盟編	個を生かす教育の実践 上	大阪書籍	1992
日本学び方研究会編	ひとり学びを育てる授業	小学館	1993
日本教育評価研究会編	指導と評価38巻7号	教科書販売	1992